

教科	地理歴史	科目	歴史総合			単位数	2
学科	工業	履修学年	3	コース		必修・選択	必修
教科書	『歴史総合』東京書籍						
副教材等	『歴史総合 ワークノート』東京書籍						

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自己実現に向けて主体的に行動し、目標達成のために継続的に粘り強く取り組む能力と態度を育成する。 ②社会の一員として自己の責任を自覚し、他者と協働しながらより良い社会の実現を目指す態度を育成する。 ③人権、差別問題等を正しく理解し、適切な行動をとることができる能力と態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①進路目標に応じた情報収集や分析等により、生徒に現状と課題を認識させ、進路実現への意欲を高め、自主的な学習活動を促す。 ②ICTの活用による学習効果を高める工夫や積極的な授業改善により、生徒が「より深く分かる」授業を展開する。 ③探究活動を通じて、広い視野で物事を捉え思考する能力、課題解決に主体的に取り組む姿勢を育成する。また、発表等の機会を活用し、企画力やプレゼンテーション能力等の育成を図る。 ④人権に関する課題や多様性について理解を深め、課題を自らの事として捉え、人権を尊重する行動がとれる資質を身に付ける。 ⑤生徒の人格を尊重した丁寧な指導や、内面に寄り添った支援等により、自律的な行動への変容を促し、自己指導力を向上させる。

学 習 目 標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとする。 (2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
指導の重点	「歴史総合」は、「地理総合」と相互的な役割を果たすとともに、「世界史探究」「日本史探究」へと接続する土台としての役割を果たす科目である。 歴史的な時間認識と空間認識をバランスよく総合する人材育成を目指し、社会で求められる資質・能力を育成することに重点をおいている。

	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (20)	第1章 歴史の扉 1節 歴史と私たち 2節 歴史の特質と資料 第2章 近代化と私たち 1節 近代化への問い 2節 結び付く世界と日本の開国 3節 国民国家と明治維新 4節 近代化と現代的な諸課題	○前近代の歴史について、中学校での学習内容を振り返る。 ○諸資料を活用し、諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。 ○交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察・表現し、理解する。 ①18 世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目し、アジア諸国の経済活動の特徴、各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察・表現し、アジアの経済と社会を理解する。 ②産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目し、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察・表現し、工業化と世界市場の形成を理解する。 ③国民国家の形成の背景や影響などに着目し、その特徴や政治変革、社会の変容などを多面的・多角的に考察・表現し、立憲制と国民国家の形成を理解する。 ④帝国主義政策の背景、政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目し、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察・表現し、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ⑤自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目し、多面的・多角的に考察・表現し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	定期検査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
学 習 計 画	2 学期 (24)	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会 3節 経済危機と第二次世界大戦 4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	○国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソ連の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察・表現し理解する。 ①第一次世界大戦の推移と大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察・表現し、総力戦と世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ②第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察・表現し、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 ③経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目し、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察・表現し、国際協調体制の動揺を理解する。 ④第二次世界大戦の推移と大戦後の世界に与えた影響、大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目し、第二次世界大戦の性格と惨禍、大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察・表現し、世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	定期検査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。

	3 学期 (20)	第4章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い 2節 冷戦と世界経済 3節 世界秩序の変容と日本 4節 現代的な諸課題の形成と展望	○冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存など、資料等を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察・表現し理解する。 ①地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目し、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソ連の政策転換などを多面的・多角的に考察・表現し、国際政治の変容を理解する。 ②冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目し、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察・表現し、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。 ③アジア諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目し、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察・表現し、市場経済の変容と課題を理解する。 ④冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目し、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察・表現し、冷戦後の国際政治の変容と課題を理解する。 ⑤科目のまとめとして、現代的な諸課題に関する主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目し、多面的・多角的に考察・表現し、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会に向けて、現代的な諸課題の展望を探究する。	定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
--	--------------	---	--	---

計 6 4 時間（5 5 分授業）

評価の観点 の趣旨と評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 ○諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	○近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
	[評価方法] 以上の観点を踏まえ、定期考査や小テストの成績、発表内容、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、達成率が 80% 以上を A、79～50% を B、50% 未満を C と評価する。	[評価方法] 以上の観点を踏まえ、定期考査や小テストの成績、発表内容、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、達成率が 80% 以上を A、79～50% を B、50% 未満を C と評価する。	[評価方法] 以上の観点を踏まえ、定期考査や小テスト、授業への取組、発表内容、レポート等各種提出物の内容、振り返りシートなどから総合的に判断し、達成率が 80% 以上を A、79～50% を B、50% 未満を C と評価する。